

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和8年度 第1回相模原市総合計画審議会（進行管理）		
事務局 (担当課)		政策課 電話042-769-8203（直通）		
開催日時		令和8年7月16日（木） 11時15分～12時00分		
開催場所		相模原市役所本庁舎本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	6人（別紙のとおり）		
	その他	0人		
	事務局	9人（政策部長、ほか8人）		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		（1）総合計画進行管理について （2）その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり

田加井政策課長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理について

事務局より1次評価の結果、2次評価施策の選定等について説明を行った。

(飯島会長) 初めに、事務局からの説明内容について、1点確認をさせていただきたい。説明資料の15ページを見ると、D評価の割合が一番高くなっているが、原因をどのように考えているか。

(事務局) 評価項目にイベントへの参加者数や施設の利用者数を用いているものが多く、コロナ禍から回復しきれていないことが、その一因であると考えている。

(飯島会長) 市民アンケート等による主観評価が多く、すぐに成果が出ないこともその一因であると考えられる。主観評価は、できるだけ避けた方が良く考えている。

(事務局) おっしゃるとおり、定性的な評価だと人によって感じ方が異なるため、次期総合計画策定の際に、評価項目については検討させていただく。

(飯島会長) それでは、本日審議する事項は、2次評価対象施策の選定、成果指標を設定していない施策を評価対象とする場合の評価方法の2点である。まず、2次評価対象施策の選定について議論を進めたい。

重点テーマは評価必須とのことであるため、その他7施策程度を選定する必要があるが、委員の皆様よりご意見をいただきたい。できるだけ、6つの「目指すまちの姿」から満遍なく選定ができれば良いと考えている。

(荻野委員) 評価対象としたい施策は、No.9「障害のある人の地域生活の支援と社会参加に向けた取組の推進」、No.20「都市機能の維持・充実と計画的な土地利用の推進」、No.21「広域交通ネットワークの形成」、No.23「首都圏南西部における広域交流拠点の形成」、No.25「国際的なビジネス拠点の形成と新たな社会経済の仕組みの構築」、No.37「水源環境・森林環境の保全・再生・活用」、No.45「市民と行政のコミュニケーションの充実」である。特に、No.25とNo.37について、関

心がある。

(石森委員) 評価対象としたい施策は、No. 20「都市機能の維持・充実と計画的な土地利用の推進」、No. 21「広域交通ネットワークの形成」、No. 23「首都圏南西部における広域交流拠点の形成」を中心に、No. 25「国際的なビジネス拠点の形成と新たな社会経済の仕組みの構築」もできればと考えている。

(飯島会長) これまでのご意見を踏まえると少し分野が偏りそうだが、事務局案はあるか。

(事務局) 事務局案は、No. 11「医療体制の充実」、No. 15「消防力の強化」、No. 16「保健衛生体制の充実」、No. 20「都市機能の維持・充実と計画的な土地利用の推進」、No. 30「基地の早期返還の実現」、No. 37「水源環境・森林環境の保全・再生・活用」、No. 45「市民と行政のコミュニケーションの充実」である。

(石森委員) これから橋本にリニアが来ることを踏まえると、No. 21「広域交通ネットワークの形成」と No. 23「首都圏南西部における広域交流拠点の形成」は押さえておきたい。No. 30「基地の早期返還の実現」については、私は南区住民で身近に感じているが、定期的に座間キャンプが市民に開放されることもあり、ある程度地域に根付いているので、返還に向けてどのように取り組んでいくのか、想像がつかない。

議題から少し離れてしまうが、特別市に関して、3政令市とそれ以外の市町村・県とで対立軸ができています。もし将来、横浜市、川崎市及び相模原市が一緒になる可能性があるなら、次期総合計画策定の際に、横浜市や川崎市の総合計画や評価方法を参考にした方が良いのではないかと考えています。

(飯島会長) 成果指標を設定していない施策は No. 23 と No. 30 であり、令和8年度と令和9年度で分けた方が良い。また、No. 21 と No. 23 は関連性があるため、令和8年度に No. 21 を評価して状況を把握してから、令和9年度に No. 23 を評価した方が良いのではないかと。

(石森委員) No. 11「医療体制の充実」はどうか。

(飯島会長) 相模原市とは日頃から付き合いがあるが、良いことをやっているのに、情報発信に課題があると感じているため、No. 45「市民と行政のコミュニケーションの充実」はどうか。

これまでの議論をまとめると、No.11「医療体制の充実」、No.20「都市機能の維持・充実と計画的な土地利用の推進」、No.21「広域交通ネットワークの形成」、No.25「国際的なビジネス拠点の形成と新たな社会経済の仕組みの構築」、No.30「基地の早期返還の実現」、No.37「水源環境・森林環境の保全・再生・活用」、No.45「市民と行政のコミュニケーションの充実」となるが、どうか。

(永井委員)「目指すまちの姿」Ⅲで評価する施策が無くなってしまう。

(中西副会長)最近では地震が多く、災害対応への関心も高まっていると考えるため、No.15「消防力の強化」はどうか。

(飯島会長)では、No.20とNo.15を入れ替えて、No.11「医療体制の充実」、No.15「消防力の強化」、No.21「広域交通ネットワークの形成」、No.25「国際的なビジネス拠点の形成と新たな社会経済の仕組みの構築」、No.30「基地の早期返還の実現」、No.37「水源環境・森林環境の保全・再生・活用」、No.45「市民と行政のコミュニケーションの充実」にしようと思うが、ご異議ないか。

(委員一同)異議なし。

(飯島会長)成果指標を設定していない施策は、令和8年度は、No.30「基地の早期返還の実現」になったが、どのように評価していくか事務局の案はあるか。

(事務局)所管課が行った1次評価の内容を事前に見ていただき、委員より意見書を提出していただく。そのご意見を取りまとめて、次回は、所管課も交えて意見交換をしながら評価方法を決めていただければと考えている。

(石森委員)米軍基地の関係は、外交上の問題でもあるため、国・県・市がどのような動きをこれまでしてきたのか、分からない部分が多い。情報がほとんどないため、評価するイメージが湧かない。

(事務局)もし、他にこういう資料が欲しいなどがあれば、意見書に記載していただければと考えている。

(2) その他

事務局より、今後のスケジュールについて、説明した。

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

No.	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学 社会情報学部 社会情報学科 教授	会長	出席
2	中西 泰子	相模女子大学 人間社会学部 社会マネジメント学科 教授	副会長	出席
3	小泉 秀樹	東京大学 先端科学技術研究センター 工学系研究科都市工学専攻 都市計画講座 まちづくり研究室 教授		欠席
4	永井 暁子	日本女子大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授		出席
5	牧瀬 稔	関東学院大学 法学部 地方創生学科 教授		欠席
6	吉田 久仁子	和泉短期大学 児童福祉学科 准教授		出席
7	石森 寿幸	公募委員		出席
8	漆原 愛沙	公募委員		欠席
9	荻野 弓希子	公募委員		出席
10	西尾 孝司	公募委員		欠席